

4 案件紹介

殺虫処理済蚊帳の普及および家庭における管理を通じたマラリア・コントロール

(UNICEF/ナイジェリア)

ナイジェリアでは、マラリアは乳幼児の四大死亡原因の一つであり、毎年約80万人の子供たちがマラリアにより死亡している。また、毎年半数のナイジェリア人が少なくとも年1回急性マラリアに苦しんでおり、それによりGDPの1%が失われており、マラリア予防は貧困撲滅、開発促進のための有効な手段となる。

このプロジェクトの目的は、ナイジェリアの4つの地域—エヌグ州、オゲン州、パウチ州およびアブジャ首都領域区—において、殺虫剤処理済蚊帳 (ITN) の利用促進を図るとともに、家庭におけるマラリア対策の改善を図ることである。

具体的には、メディアによるITN利用に関する普及・啓発活動を通じて需要創出支援を行うことにより、ITNの生産活動支援

を行うとともに、家庭におけるマラリア対策を行う母親や介護者の意識向上を行う。



蚊帳を掛ける看護婦
Covering hospital beds with ITNs

このプロジェクトにより、マラリアによる乳幼児および母親の死亡率低下、マラリア治療に係る家計の負担軽減が期待されている。

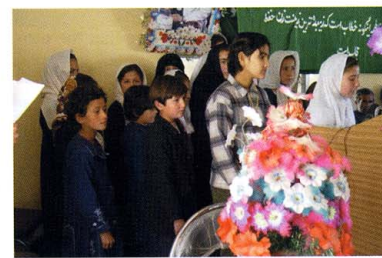
IDPおよび難民女性の共同体構築への統合

(UNIFEM/アフガニスタン)

20年間にわたる紛争と過去数年にわたる女性の社会からの隔離はアフガニスタンにおいて社会の分裂をもたらし、同国の女性の生活に深刻な影響を及ぼしてきた。

このプロジェクトは、アフガニスタンにおいて、難民、避難民の女性がコミュニティ (共同体) における社会的、経済的、政治的活動に参加することを促し、社会に再統合されることを目的に、「女性コミュニティ・センター」を設立し、保健や教育に関するサービス、心理カウンセリング、職業技能訓練等を実施する他、メディアを通じ女性の権利やジェンダー問題に関する啓蒙活動を実施するものである。

このプロジェクトの実施により、アフガニスタンの難民・避難民女性の社会への再統合過程が促進されるとともに、アフガニスタンにおける女性の地位についての理解が高まることが期待される。



女性センターでの「世界女性の日」式典
Celebrating the International Women's Day at the Women's Community Center

職業訓練および経済的自立を通じた元兵士の社会復帰支援プログラム

(UNDP/シエラレオネ)

10年間の内戦を経て、2002年1月に武装解除・動員解除を正式に終了したシエラレオネにおいて、東部国境沿いの最も治安・インフラが不安定なコノ、コイナドゥグ、カイラフンの3地区で、元兵士の社会復帰を支援するものである。

この3カ年プロジェクトでは、上記3地区の元兵士など5,000人に対して、経済的自立に向けた専門技能を身に付けさせるため、技術訓練、正規教育、農業プロジェクト、マイクロクレジット、職業訓練が6ヵ月間にわたって提供される他、戦争による被害を受けた若者・住民3万人を対象に啓蒙、人権・市民教育も行われる。

2003年3月現在、元兵士約1,000人が大工、石工、仕立業、鍛冶、自動車整備、石鹸作り、染物、農業、道路・競技場の補修を通じた職業訓練を受けている。その間、元兵士は月30ドルの生活手当を受け、訓練終了時には工具一式が支給される。



農業研修を受ける元兵士
Training session on farming

キューバ共和国における性感染症・HIV/エイズ予防プログラム強化

(UNDP/キューバ)

キューバではHIV/エイズ感染者の総数は多くないものの、カリブ地域の感染者数の増加に伴い、2001年にはHIV新規感染者が、前年比18%の増加を記録した。このプロジェクトは、性行動が活発な15歳から39歳の青年男女を対象に、最も感染者の多い首都ハバナ市ならびにビジャ・クララ県およびサンチアゴ・デ・クーバ県において責任ある性行動を推進する活動を支援するものである。具体的には、HIV/エイズ予防センターの修復、ポスター、パンフレット、冊子の作成、保健医療関係者、

医学部・看護学校生およびカウンセラー等のトレーニングを実施する。



HIV/エイズ予防センターでの電話カウンセリング
Telephone counseling at the HIV/AIDS prevention centers

早魃および牧畜地域における初等教育支援

(WFP/タンザニア)

タンザニア国内の農村部では、頻発する早魃や未発達な農業システムのため、未だ深刻な貧困に苦しんでいる。一方、教育システムは経済的・制度的にも脆弱であり、就学児童が公正な初等教育の機会を得られない状況にある。WFPは人間開発のための初等教育の重要性に着目し、特に食糧事情が厳しく就学状況が悪い地域における就学率の改善を目指して、2000年1月より学校給食プログラムを開始した。このプロジェクトは、初等教育改善計画の一部であり、教師・父母・地域住民そしてNGOの参加によって、劣悪な環境にある学校施設の改善を通じ、学校給食プログラムの効果の相乗的な向上を目指している。具体的な活動は、厳しい早魃地域であるドドマ、シンギダ、ま

た牧畜地域であるアルーシャ県内の小学校および小学校寮を対象に、(1) 学校農園の支援 (2) 安全な水の確保のための雨水貯水タンク供給および既存給水システムの改善 (3) 校舎およびトイレの建設、改善 (4) 教師や地域住民へのHIV/エイズ啓蒙活動を行っている。



学校給食を受ける児童
School-feeding program for the children

紛争・経済危機の被害を受けた家庭の支援体制作り

(FAO/コンゴ民主共和国)

コンゴ民主共和国における5年間にわたる紛争による危機は、大都市における伝統的な食糧供給網を崩壊し、家庭の購買力を低下させた。このため、生存の手段として、多くの家庭は、園芸、食用作物および養鶏分野における食糧生産の開始および強化を余儀なくされた。

このプロジェクトは、キンシャサ市、ブジマイ市、ルブンバシ市およびこれら都市周辺部において、野菜の種、食用作物の種、農具およびひな鳥や当座のエサを含む繁殖器を3万世帯に提供し、農業生産活動等に対する技術支援を行っている。

また、このプロジェクトでは、NGOやその他の機関に対

し、十分な訓練を行う他、裨益者の特定、物資の配布からフォローアップまでのすべての過程においてNGOや関係機関が関与している。



農村で実施された養鶏事業
Raising poultry in a farm

カピス州における統一コミュニティを基本としたリプロダクティブ・ヘルス/家族計画

(UNFPA/フィリピン)

このプロジェクトは、フィリピン国内で最貧困地域であるカピス州の8市40村において、同州政府が日本のNGOのJOICFPと協力し、家族計画、母子保健、思春期性教育等の分野で、コミュニティを基盤としてリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖

に関する健康）分野のサービス向上、技術指導、知識および意識向上、地元自治体の計画策定・実施管理・モニタリングの能力等を測るものである。

これまでに、パイロット地域における保健医療施設の改善、リプロダクティブ・ヘルスサービス提供者やコミュニティのボランティアに対するトレーニング、コミュニティ・レベルの集中的な情報・教育キャンペーンの実施等で成果を挙げている。